

中国から考える。市内企業にとっての中東情勢悪化の影響と対策案

ポイント

- ・ 中東情勢の悪化により、包装資材を中心に石油由来の原材料の高騰、品不足が顕著に。
- ・ 市内企業にとっても、複数の供給先の確保を検討することは、長期的な事業継続のカギとなる
- ・ 資材価格の高騰が比較的緩やかな中国企業との連携もその選択肢の有力なひとつ

Topic 01 石油由来の包装資材価格の高騰・先行き不透明感とその影響

帝国データバンクの調査によると、この10月までに値上げが判明している食品は1.1万品目を超え、その約7割が「包装・資材の価格上昇」を理由に挙げており、資材高騰が企業の経営を直ちに圧迫している実態が浮き彫りとなっています。

背景には中東情勢を受けたナフサ価格の高騰があり、包装フィルムの価格は春先に比べ約2割上昇しています。価格高騰とともに先行きの供給不安から、市内の企業からも「資材の急激な値上げはもちろん、先行きの発注が見通せない」「新商品のパッケージ発注を受けてもらえない」といった切実な声も聞かれます。従来の国内調達網だけに依存する構造は、今後の企業のチャレンジや経営継続の大きな壁となっていくかもしれません。

Topic 02 現地調査報告：新たな選択肢の可能性のひとつ (大連峰海包装有限公司)

こうした調達課題の解決に向け、大連事務所では中国・大連に拠点を置く包装資材・印刷メーカー「大連峰海包装有限公司」を訪問・調査しました。

創業社長の宋海霞氏によると、同社は2002年の創業以来、アイリスオーヤマをはじめ日本向けに豊富な納入実績があり、食品安全マネジメントシステム「ISO 22000認証」を取得した自社工場で全工程を一貫管理し、日本製の最新鋭設備を導入し、多品種・小ロットから量産まで柔軟に応じられる安定した供給力を強みとしています。また「福岡市内にも営業拠点を構えているため、日本国内でのご相談やアフターフォローにも迅速に対応できる体制を整えています」と語っています。



大連峰海包装有限公司
宋海霞 董事長

Topic 03

大連事務所を活用した連携 パートナー探しのご提案

今回の調査を通じて、福岡拠点の存在や大連-北九州間の物理的な近さという強みを持つ

同社との連携は、市内の多くの企業にとって調達コストの圧縮と供給の安定化を両立する現実的な選択肢の一つであることを実感しました。

同社は中国南部の広州市にも、穀物や化学品などを保管・運搬するための大型の袋（フレコンバッグ）の新工場も建設中とのことでした。

食品関連に限らず、包装資材のコスト高や入手困難にお困りの企業が同社との連携を図ることは、有事に備えたサプライチェーンのBCP（事業継続計画）強化と収益の改善に直結する可能性があります。

大連峰海包装へのアプローチはもちろん国内での資材調達にお困りの企業があれば、ぜひ当事務所にお問い合わせください。具体的な連絡先やご相談の進め方などをご案内いたします。



大連峰海包装有限公司の商品ラインナップ